

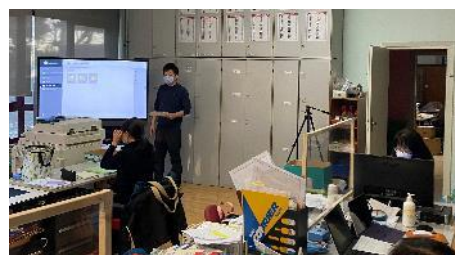
ICTを活用した教育体制構築に関する実証事業 報告書

1. 学校名
ローマ日本人学校
2. テーマ
意欲的に学習に取り組み、表現することができる児童生徒の育成 ～ICT 機器の活用を通して～
3. 取組の概要
<p>電子黒板を中心とした ICT 機器を整備し、子ども達に思考力・判断力・表現力及び ICT 活用能力、情報活用能力を高める取り組みを行った。また、コロナ禍における休校時などの子ども達への学習支援として、インターネットを介した質の高い授業を提供できる環境を構築した。</p> <p>具体的には、①学校内に WI-FI リピーターを設置②電子黒板、WEB カメラ、書画カメラを各教室に配置③学校用デジタルビデオカメラ の購入を行った。次に、ICT 機器活用研修会を校内で実施し、実際の授業での活用を図った。授業における成果と課題を明らかにし、全教員で成果と課題を共有しさらなる ICT 機器の活用を通しての授業改善を行ってきた。また、新型コロナウイルス感染防止のため自宅隔離となった児童生徒に対しても、自宅と教室を繋いだ授業を行うことができ、非常時における学びの継続を図ることができた。</p>
4. 取組の背景・目的
<p>イタリアは、現在1日の新型コロナウイルス感染患者が20,000人を超え、イタリア政府当局の指示に従い予防的隔離措置として学年閉鎖を行ったり、通学バスでは、利用便児童生徒の出席停止措置をとったりしている。当校は、小中8学級の小規模校である。現校舎は、2階建てで、現有のWi-Fiステーションは、1階エリアのみであり、さらに複数台を同時利用すると接続が不安定になってしまう。普通教室と特別教室は、2階に配置されており教室にはWi-Fi環境がない状況で、各教員は、私物パソコンとスマホのテザリングを利用して授業を行っている。</p> <p>そこで、Wi-Fiネットワークを増幅し、高速かつ同時使用できるWi-Fiネットワーク環境の構築を図るために、本事業を利用しWi-Fiリピーターを2階に設置したい。</p> <p>次に、各教室に電子黒板、書画カメラの配置を通して、個別最適化された学習を効率的に行い、教員が児童生徒の習熟状況を把握し、個に応じた支援を適切に実施することができることを期待する。さらに、非常時においては、児童生徒の学びの保障を計っていくことができると考える。</p> <p>○ 電子黒板</p> <p>オンライン授業で黒板に板書をして、見えづらいという意見が家庭からある。オンラインの授業の時にも板書をはっきりと見ることができ、スムーズな授業展開を可能にするために電子黒板が必要である。コロナ禍で予防的自己隔離が義務付けられた子どもに対しても電子黒板に書き込んだ内容をデータ保存し提供する。また通常の対面授業では、子どもの思考力・表現力・想像力を深めるために、児童生徒の発表の時に、共有したい教科書内容や資料の提示を行う。さらに、通常学級における特別な支援を要する児童にとっても、視覚的に一層分かりやすい授業となり、授業に集中する時間がさらに増えることを期待し、電子黒板を活用する。</p> <p>○ 書画カメラ</p> <p>自分の考えの発表では、ノートでは見えにくいために発表用に大きな紙に書き写すなど時間がかかったり、計測器の目盛りなど見えにくくものの理解に時間を要したりすることが多かった。</p> <p>しかし、書画カメラを使用することで、子ども同士の考えが共有しやすくなることが期待できる。具体的には、資料を共有し、分かりやすさをアップさせるために、資料の大切な部分や実験等の場面を静止画にして表示しておいたり、子どものノートなどの紙資料や、地球儀、実験器具、模型、商品ラベル等の実物資料を投影したりする。</p> <p>思考を深める学習のために、授業の展開に応じた資料（フラッシュカード）を提示したり、多くの子どもの表現を共有したりする。</p> <p>○ ビデオカメラ</p> <p>子どもの学びの学習支援のため、コロナ禍における自宅待機児童生徒への配信や学校閉鎖時のオンライン授業を実施するためにビデオカメラが必要である。</p> <p>別紙にて、Wi-Fi環境とICT機器の必要性および活用方法について具体的に述べる。</p> <p>将来的にパソコンを児童生徒1人に1台、教員1人に1台を配置することを目指し、計画的な学校予算を組むとともに、今回、本事業を利用し、ICT教育環境の土台を構築することとする。</p>

5. 取組の実施日程	
日程	取組内容
6月	国内待機教員のオンライン web 会議ソフトによる参画
10月下旬	申請書の提出
12月10日	実証事業実施計画書に関する教職員の共通理解
11日	研究計画の立案・検討
15日	児童生徒への事前アンケートの作成・検討
17日	児童生徒への事前アンケートの実施・集計
18日	電子黒板と移動用キャスターの組み立て開始 (10 台)
1月4日～11日	電子黒板と移動用キャスターの組み立て・設置作業
12日	授業実践 (中学部道徳)
13日	校内研修実施 (電子黒板、書画カメラ、ビデオカメラの活用方法) 授業実践 (小学部3年算数)
14日	授業実践 (中学部1年理科)
15日	電子黒板ソフトウェアのアップデート 授業実践 (小学部1年算数)
18日	授業実践 (中学部保健体育)
19日	書画カメラのラベリング作業
20日	授業実践 (小学部1年算数)
21日	授業実践 (小学部2年国語) 授業実践 (小学部1・2年生活) 授業実践 (小学部3・4年道徳) 授業実践 (中学部1・2年英語)
22日	電子黒板への Wi-Fi ドングルの取り付け 授業実践 (小学部6年 EC) 授業実践 (小学部5年算数)
25日～28日	授業実践 (中学部保健体育)
28日～29日	インターネット回線のケーブル交換の工事实施
2月5日	児童生徒への事後アンケートの実施・集計
8日	授業実践報告の取りまとめ
9日～10日	報告書の作成
11日～12日	報告書の確認
6. 具体的な取組内容	
<p>1. 児童生徒事前・事後アンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒に授業に関するアンケートをとることで現状や課題を把握したり成果を見たりする。 アンケートの調査項目－「意欲・関心」「表現力」「ICT 情報活用すること」について問う。 <p>2. ICT 機器の整備</p> <p>①電子黒板、移動台</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教室への計 10 台の設置 ソフトウェアのインストール、アップデート <p>②書画カメラ</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教室への計 10 台の設置 使用時に必要となるシリアルナンバーのラベリング <p>③ビデオカメラ、三脚</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員室の定位置へ計 3 台を整備 <p>④校内無線 LAN</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教室に Wi-Fi 送信機を設置 校内のネット回線の工事施工 	

3. 校内研修の実施

- ①電子黒板、アプリの基本的な操作方法
- ②書画カメラ、ビデオカメラの操作方法
- ③電子黒板とPC、電子黒板と書画カメラの接続方法と使用方法



4. 授業実践（詳細資料は別紙にて添付）

- ①小学部第二学年「ようすをあらわすことば」（国語）
 - ・校内無線 LAN と電子黒板内ソフトを使用し、教員 PC の画面を電子黒板にミラーリング。
 - ・書画カメラで児童のワークシートをデータ化、電子黒板で投影。
 - ・電子黒板で語句の種類を分類、整理。



- ②小学部第三・四学年「漢字に思いをこめて」（道徳）
 - ・オンライン web 会議ソフトと校内無線 LAN を使用し、教員の PC 画面を電子黒板にミラーリング。児童の自宅と教室を繋いだ。
 - ・書画カメラで教科書をデータ化し、電子黒板で投影、オンライン web 会議ソフトで画面共有。



- ③小学部第五学年「正多角形と円をくわしく調べよう」（算数）
 - ・書画カメラで教科書をデータ化し、電子黒板に提示。
 - ・校内無線 LAN と電子黒板内ソフトを使用し、教員 PC の画面を電子黒板にミラーリング。
 - ・タッチペンで、電子黒板に書き込む。
 - ・学習成果物として、電子黒板に保存したものを印刷する。



- ④中学部第一・二学年「思い出の行事紹介」（英語）
 - ・電子黒板に、生徒作成のパワーポイント作品を投影してのスピーチ発表。
 - ・スピーチをビデオ撮影し、それを電子黒板にて上映。



- ⑤中学部「健康な生活と病気の予防」（保健体育）
 - ・校内無線 LAN と電子黒板内ソフトを使用し、教員 PC の画面を電子黒板にミラーリング。
 - ・電子教科書を使用し、電子黒板に投影。
 - ・電子黒板で語句の記述、内容を整理。
 - ・各自パソコンやタブレットを使用してインターネットを用いた調査を行い、電子黒板に分割ミラーリング。



⑥ 中学部「武道 剣道」(保健体育)

- ・デジタルビデオカメラを使用し、動作の撮影。
- ・電子黒板に投影し、自己の動作のフィードバック。



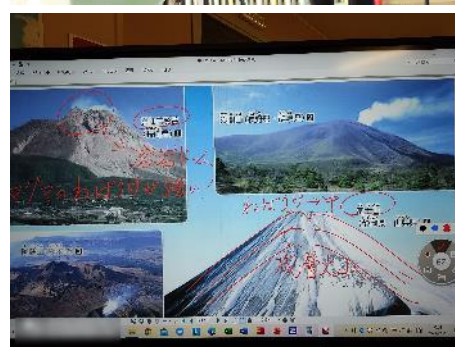
⑦ 中学部第一・二学年「花に寄せて」(道徳)

- ・USBに保存された画像データをそのまま電子黒板に投影。
- ・電子黒板をインターネットに接続し、動画を視聴。
- ・電子黒板に生徒の意見を投影。



⑧ 中学部第一学年「大地の変化」(理科)

- ・校内無線LANと電子黒板内ソフトを使用し、教員PCの画面を電子黒板にミラーリング。
- ・電子黒板に観察した様子を書き込み、発表。
- ・電子黒板をインターネットに接続し、動画を視聴。



5. その他の実践

- ・オンラインweb会議ソフトと書画カメラを使用し、自己隔離中の児童と教室の双方向のやりとり。
- ・ビデオカメラで学校行事(学習発表会、持久走記録会)を録画し、YouTubeで保護者に向けて限定公開。
- ・書画カメラを使用して、授業で使用する教材の作成。

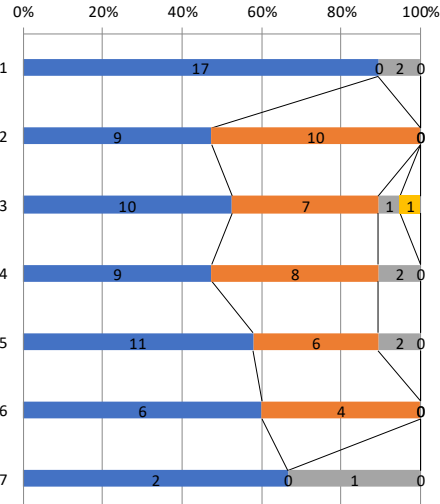
7. 取組の成果

1. 児童生徒事前・事後アンケートの結果から

- ・「自分の考えを広げることができたか」に「そう思う」と回答した児童生徒は、20人中18人と事前アンケートに比べて7人増えた。ICT機器の活用場面を増やすことで、児童生徒の発表場面が増え、他者の考えや意見に触れる機会が、自分の考えや意見を広げることにつながったと考えられる。
- ・「学習したことをもっと調べてみたい」という項目に高学年・中学部の児童11人のうち10人の児童生徒が「そう思う」と回答した。これは、ICT機器が各教室に設置され、インターネット環境が整備されたことにより、授業中に分からないことがあるとすぐに検索できる環境が整った結果、児童生徒の「もっと調べてみたい」という学習意欲にもつながっているのではないかと考えられる。

【事前アンケート結果】

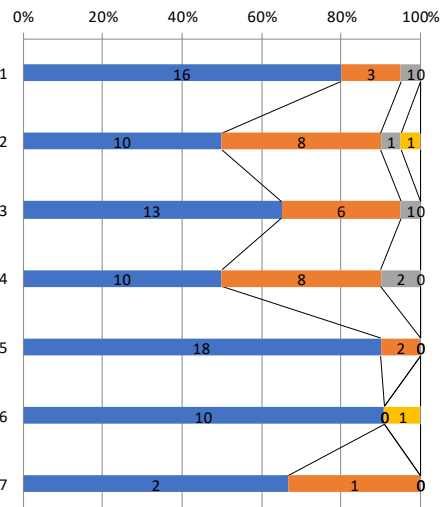
集計結果(全体)					
質問No.	おも そう思う	おも まあ思う	そうでもない	おも 思わない	
	4	3	2	1	
全学年 共通	1 楽しく学習できている	17	0	2	0
	2 進んで学習に取り組む	9	10	0	0
	3 最後まで取り組む	10	7	1	1
	4 わかりやすく伝える	9	8	2	0
	5 自分の考えの広がり	11	6	2	0
高学年・ 中学部 のみ	6 もっと調べてみたい	6	4	0	0
中学部 のみ	7 教科書資料から情報収集	2	0	1	0



全体の割合(%)				
おも そう思う	おも まあ思う	そうでもない	おも 思わない	
4	3	2	1	
89	0	11	0	
47	53	0	0	
53	37	5	5	
47	42	11	0	
58	32	11	0	
60	40	0	0	
67	0	33	0	

【事後アンケート結果】

集計結果(全体)					
質問No.	おも そう思う	おも まあ思う	そうでもない	おも 思わない	
	4	3	2	1	
全学年 共通	1 楽しく学習できている	16	3	1	0
	2 進んで学習に取り組む	10	8	1	1
	3 最後まで取り組む	13	6	1	0
	4 わかりやすく伝える	10	8	2	0
	5 自分の考えの広がり	18	2	0	0
高学年・ 中学部 のみ	6 もっと調べてみたい	10	0	0	1
中学部 のみ	7 教科書資料から情報収集	2	1	0	0



全体の割合(%)				
おも そう思う	おも まあ思う	そうでもない	おも 思わない	
4	3	2	1	
80	15	5	0	
50	40	5	5	
65	30	5	0	
50	40	10	0	
90	10	0	0	
91	0	0	9	
67	33	0	0	

2. ICT 機器の整備から

①電子黒板、移動台

- ・各教室に一台の電子黒板、移動台を設置したことにより、すべての授業で機器の使用が可能となった。
- ・移動台とセットにしているため、授業に応じ設置場所の変更、特別教室での使用が可能となった。

②書画カメラ

- ・各教室に一台の書画カメラを設置したことにより、すべての教室での使用が可能となった。
- ・それぞれの書画カメラにシリアルナンバーをラベリングしたことにより、教師用 PC と各教室の書画カメラを接続し、教師用 PC に保存している教材を使用することができるようになった。

③ビデオカメラ、三脚

- ・複数のカメラがあることで、同時に複数の学級で使用することができた。
- ・三脚を使うことで定点固定ができ、他の教職員の補助を頼ることなく映像を撮ることができた。

④校内無線 LAN

- ・これまで教室ではインターネットを使用することができず、教師の携帯電話を使用したテザリングを使用せねばならなかったが、全ての教室で必要な時はいつでもインターネットへの接続が可能になった。
- ・回線の延長工事と各教室への子機の設置を行ったことで、インターネットの送受信速度が向上した。

3. 校内研修の実施から

- ・ICTの活用についての職員研修を行い、全教員が各授業で機器を使用することができた。
- ・すべての教員が基本的な使用方法を知って実践していくことができた。また、その実践の成果と課題を共有することでそれぞれの教員のスキルアップ及び授業改善につながった。

4. 授業実践から

①小学部第二学年「ようすをあらわすことば」(国語)

- ・書画カメラで取り込んだものを電子黒板に投影することで、児童の発表が分かりやすくなり、意見交流が活発になった。
- ・電子黒板の大型スクリーンに児童一人一人の意見をまとめることができ、全体での共有が効率的に行われた。
- ・自分の考えを発表・分類する場面で電子黒板を用いることで、児童が自ら、他者に分かりやすいように画像を拡大したり、移動したりするなど、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。

②小学部第三・四学年「漢字に思いをこめて」(道徳)

- ・オンライン Web 会議ソフトを使用して、自己隔離で登校できない児童とつなぎ、その児童を電子黒板に投影することで、実際に教室で授業を受けているような環境を整えることができた。
- ・電子黒板の大型スクリーンにデータ化した教科書を投影し、ポイントになる部分に書きこみしながら説明したことで、児童が要点をつかむことができた。
- ・オンライン Web 会議ソフトの画面に、自己隔離で登校できない児童のワークシートを電子黒板に投影し、学級全員の発表や感想を交流し合うことができた。

③小学部第五学年「正多角形と円をくわしく調べよう」(算数)

- ・電子黒板に教科書を大きく提示することで、児童が視覚的に理解できた。
- ・児童が扱う PC 画面を電子黒板上に映し出すことで、児童自身が操作している画面に、教師が直接書き込むことができ、児童の気付きを促すことができた。
- ・児童の学習成果物を保存することで、教師の評価や児童の振り返りに活用することができた。

④中学部第一・二学年「思い出の行事紹介」(英語)

- ・生徒が作成したパワーポイントを電子黒板上に投影したことで、視覚的に友だちの作品を見ることができ、友だちの発表内容の理解を助けることができた。
- ・スピーチ発表者は、電子黒板の画面を指さしながら説明することができたので、より自然にジェスチャーに結び付けることができた。
- ・録画したビデオを視聴することで、生徒自身が 1 回目のスピーチから 2 回目のスピーチの自己の成長を振り返ることができた。同様に、友だちの成長を視聴することにより、今後のスピーチ発表の参考にすることができた。

⑤中学部「健康な生活と病気の予防」(保健体育)

- ・大型スクリーンに電子教科書を映し出すことで、学習している箇所が視覚的に分かりやすくなった。
- ・ワークシートのひな型を電子黒板に投影し、記入モードで直接画面に書き込むことで、生徒一人一人の発表意欲を高め、全体での共有が効率的に行われた。
- ・各自が調査した内容を、同時にミラーリングすることで、調査内容を比較しやすくなり、生徒の気付きを生み出しやすくなった。

⑥中学部「武道 剣道」(保健体育)

- ・自己の動作を、実施後すぐにフィードバックしたことで、どのような動作を自分自身で行っているのか、客観的に自己分析することができた。

⑦中学部 第一・二学年「花に寄せて」(道徳)

- ・作者の作品を展示している美術館のホームページ動画を視聴することにより、生徒が作者について理解し、より作者の心情に共感することができた。

- ・作者の作品を大画面で提示することにより、生徒が作品をよりリアルに感じ、作者の心情についての考えを深めることができた。

⑧ 中学部 第一学年「大地の変化」(理科)

- ・NHK for school の動画を電子黒板の大画面で視聴することで、生徒が大地の細かい様子を観察することができた。
- ・生徒自身が観察した岩盤の様子を、電子黒板に書き込み発表することで、岩盤の特徴を整理して理解することができた。

5. その他の実践から

- ・オンライン Web 会議ソフトをつなぐことで、アメリカにいる教師と対面インタビュー練習をすることができた。初対面のネイティブの教師とのインタビュー場面を設定することで、生徒はふだんよりも緊張感をもって臨むことができた。(中学部第二学年英語)
- ・ビデオカメラで録画したものを YouTube でアップすることにより、現在校内に入ることのできない保護者に向けて、児童生徒の活動の様子を伝えることができた。(学習発表会、持久走記録会)
- ・今までは職員室のコピー兼スキャナー機一台で教材を作成していたが、各教室の書画カメラでスキャンすることができるようになり、教科書の問題などの教材を高画質で撮影し、その場で電子黒板の画面上に投影することができるようになった。コピー用紙の節約にもつながった。

8. 今後の課題・展望

(※次年度以降への継続性及び発展性に言及してください。)

1. 児童生徒事前・事後アンケートの実施から

- ・「自分の考えを分かりやすく伝える」に「そう思う」と回答した児童生徒は10人、「まあ思う」が8人、「そうでもない」が2人であった。この結果については、事前アンケートとあまり変化が見られなかった。このことから、児童生徒は、発表の機会は増えているが、自分の考えや意見を自信をもって伝えることができていないのではないかと考える。今後も ICT 機器を活用して、児童生徒の発表の機会を増やし、「他者への伝え方」を意識した授業場面を設定していきたい。

2. ICT 機器の整備から

① 電子黒板、移動台

- ・今後、ロックダウンなどにより児童生徒の登校ができなくなった場合、オンライン Web 会議ソフトを介して、教師が教室からオンライン授業や行事等を実施する。
- ・児童生徒の集会などを行う際に、ソーシャルディスタンスを気にせずに全校での活動ができるように、各教室からオンライン Web 会議ソフトを使用して実施する。
- ・入学式や卒業式などで校内に入ることができない保護者や来賓をオンラインで招待する。
- ・現在中止している、現地校やインターナショナル校との国際交流事業をオンラインで実施する。

② 書画カメラ

- ・機器自体のサイズが大きいため、教室内の設置場所を考える必要がある。
- ・機器とプラグを繋ぐ電源ケーブルが短いため、延長コードを整備していく。
- ・機器を使用するには、教師の個人 PC を経由しなければならないため、学校用の PC を整備していく必要がある。

③ ビデオカメラ、三脚

- ・カメラと電子黒板を繋ぐ、付属の HDMI-miniHDMI ケーブルが短いため、長いものを購入する必要がある。
- ・校内に入ることができない保護者へ向けて、各行事の映像を録画し、公開していく。

④ 校内無線 LAN

- ・全教室でインターネットに接続した場合、つながりにくくなる教室が出てくるため、回線自体の契約を見直し、快適にインターネットに接続できる環境を整えていく。
- ・共有フォルダを作成し、PC を教室へ持ち運ばなくても、教材を電子黒板に投影することができるように校内ネットワークを整備する予定である。

3. 校内研修の実施から

- ・年度始めに新赴任の教職員を対象に ICT 機器の活用についての研修を実施していく。
- ・今回の事業の成果をもとに、ICT 機器の活用について来年度も校内研究で取り扱っていく。

4. 授業実践から（今後のオンライン授業等での活用案）

①小学部第二学年「ようすをあらわすことば」（国語）

- ・タブレットなどで、児童にノートやワークシートの写真を撮って送ってもらえれば、オンラインでも教室で授業するのと同様の交流ができる。
- ・書画カメラの動画の録画を使用すれば、動きがあるものも保存できる。録画したものを紹介する発表をすることで、他者に分かりやすく伝えることができる。

②小学部第三・四学年「漢字に思いをこめて」（道徳）

- ・児童生徒がノートに書いた意見や解答を、書画カメラを通して電子黒板で提示することで、児童生徒が互いの意見を比較検討することができる。
- ・他の日本人学校や日本の小中学校、ゲストティーチャー等とオンライン Web 会議ソフトをつなぎ、意見交換やゲストティーチャーによる授業を行うことができる。

③小学部第五学年「正多角形と円をくわしく調べよう」（算数）

- ・電子黒板にミラーリングした画面に教師が書き込むよりも、児童自身が書き込む活動を設定することで、児童生徒の学習意欲を上げることができる。
- ・画像の保存機能を活用し、振り返り等で児童自身が自己の学習を伝える活動を取り入れることができる。

④中学部第一・二学年「思い出の行事紹介」（英語）

- ・生徒の英作文を書画カメラで映して電子黒板に投影することで、共通点、相違点を確認し、生徒が自己の発表内容を見直すことができる。
- ・YouTube などの動画から、プレゼン発表などを視聴し、参考にできる点について話し合い生徒の英語表現活動につなげることができる。

⑤中学部「健康な生活と病気の予防」（保健体育）

- ・教職員個人のパソコン、タブレットを使用したので、学校で同機種のものでそろえることができれば、児童生徒も操作に慣れることができる。
- ・同時にミラーリングができるので、生徒が調査内容をもとに授業中に簡単なプレゼンテーションを作成し、発表する活動を設定することができる。

⑥中学部「武道 剣道」（保健体育）

- ・映像遅延ソフトを介して撮影し、すぐに自己の動作を確認できるようにすれば、学習効率を上げることができる。
- ・ゲストティーチャーの師範映像を見せたり、ゲストティーチャーとオンライン Web 会議ソフトを介して繋ぎ、動きの指導をしてもらったりすることができる。

⑦中学部第一・二学年「花に寄せて」（道徳）

- ・今回はそれぞれの感想を写真に撮り電子黒板で映し出して発表したけど、オンライン授業ではだれが発言しているのかわかりにくいところもある。自分の感想を画面共有のホワイトボードに記入したものを順に提示して考えを交流し合う場面を設定することができる。

⑧中学部第一学年「大地の変化」（理科）

- ・実際に出かけて観察することのできない火山や地層などは、電子黒板上に映像教材を投影して、導入やまとめの段階で活用することができる。
- ・オンライン Web 会議ソフトのホワイトボードを活用し、児童生徒が書いた観察物を提示して発表し合い、交流する活動を設定することができる。

5. その他の実践

- ・社会科の授業で、児童が書いたワークシートを書画カメラに取り込み、電子黒板に投影し、児童が自分の書いた内容を発表した。児童が書いたものをすぐに投影して発表し、それをもとに話し合いが活発になったので、効果的な使用方法だと感じた。

9. 所感

昨年の3月初旬、本校では修了式や卒業式ができぬまま、子ども達は登校することができなくなりました。イタリア全土でロックダウンが実施されたのです。新学期になっても子ども達は通学どころか自宅からすら出られない状況が続きました。そんな中、本校では1学期の間、子ども達の学習保障のために、オンライン授業や課題配信を行いました。しかし、やっている間に多くの課題にぶつかりました。特に、

学校と各家庭のインターネット回線が不安定だったことと各家庭での ICT 機器の不足があげられます。インターネット回線が不安定だったことからオンライン授業が途中で繋がらなくなり、授業を中断せざるを得ない状況になったり、ICT 機器の不足から、兄弟姉妹が同時に使用しないでのいいような時間割を組んだりする必要が生じ、環境整備の早急な対策が必要だと感じました。

また、本校の児童生徒は少人数であるために、一人一人が大変まじめで授業に臨むことができますが、どうしても受け身になることが多く、教師から受けた指示を待つことがあり、自ら意欲的に学習に取り組むことに課題がありました。少人数授業の中では、自己の考えや思いを他者に伝え、交流する場面が限られています。そこで昨年度より、「児童生徒の学習意欲を伸ばし、他者との交流で自己の考えや思いを広げたり深めたりすることができる児童生徒をはぐくみたい」という願いをもって、校内研修に取り組んでいたところでした。

しかし、今回の新型コロナウイルス感染症予防のための休校措置にあたり、オンライン授業をすることになり、児童生徒が伸び伸びと活発に自分の考えを出しながら進める授業とは、かけ離れた状態でした。

そんな中、9月から通常登校が再開し、子ども達と再会できた喜びと、いつロックダウンや休校になるかもしれない不安の中、この実証事業により、オンライン授業を1月より学校全体で行うことができるようになりました。

3学期からは、転入してきた児童生徒たちの入国後の自己隔離期間や、新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者として自宅待機が必要な児童生徒に対して、この実証事業により整備されたインターネット環境と電子黒板により、登校しているクラスメイトと教室で一緒に授業を受けることができました。

また、各授業の成果報告にもありますが、通常の授業においても、ICT 機器を児童生徒の思考ツールの一つとして使用することができました。児童生徒も、わずかの期間で電子黒板を使いこなし、授業で積極的に発表したり、交流したりする様子が見られるようになりました。

その他、以前のように学校行事に参加できない保護者への情報発信にも役立っています。実証事業で購入したビデオカメラを用いて、児童生徒の授業の様子を録画したものや、学校行事の発表の映像を YouTube に限定公開することで、各家庭の保護者が児童生徒達の活躍を繰り返し観ることができるようになり、保護者より好評を得ています。

さらに、ICT 機器は教員の授業準備や教材作成の効率化にも役立っています。授業で見せたい写真をスキャンで一瞬のうちに保存したり、その画像をタッチ一つで投影したりするなど、これまでと比べ教員の授業準備の時間を短縮できるようになりました。コロナ禍と実証事業を機に、本校の教育体制は大きく変わってきているのを感じています。

現在もイタリア国内の感染状況は改善しておりません。今後は、再度のロックダウンや自宅隔離が実施されることも考えると、引き続き機器活用の幅を増やしたり、教職員のスキルを高めていったりする必要があると考えています。

海外で生活する児童生徒の「非常時でも途切れない学びの保障」をしていくため、次年度も継続して校内研修として取り組んでいく所存です。

現在は、さらなる ICT 環境の充実に向けて、児童生徒一人一台の PC タブレットの整備を計画しているところですが、本校の財政状況では、実施困難であることも予想されます。

各関係者には、GIGA スクール構想を実現、日本国内と同等の教育を海外子女にも展開できるようにしていくため、さらなる支援を切望します。

私自身、本実証事業を推進する中で「慣例にとらわれず臨機応変に取り組むこと」の重要性を改めて知

ることができました。非常時においても「目の前の児童生徒の学びのために何ができるのか」と、教員としての自らの役割を改めて考え、実行する好機を与えていただけたと感謝しています。

また、初めてこのような大きな事業の校内担当を任せていただき、うまく舵取りをできるのか不安だった私に、快く協力していただき、一丸となって取り組んでくださった先生方にも感謝しています。先生方に多くの助言をいただき、本事業報告をまとめることができました。

最後に文部科学省、海外子女教育振興財団の関係各所の皆様をはじめ、ICT 教育アドバイザーの大福聡平先生に多大なるご支援を賜りましたことを感謝申し上げます。